

直轄管理区間の現地視察等に関する
ご意見についてのアンケート

集 計 結 果

1. 現地視察を振り返って

これまでの円山川直轄管理区間の現地視察についてご意見をお願い致します。

- 1) 視察した地点の中で興味深かった、関心を持った地点について、
、
、
でお答えください。また、その地点を選ばれた理由をお教え下さい。
：大変興味深かった（関心を持った。）
：興味深かった（関心を持った。）
：ふつう
- 2) 現地視察を行って新たに把握したことについてお教え下さい。
- 3) 直轄管理区間の現地視察について、ご感想・ご意見・ご質問がありましたら
ご自由にお書き下さい。

2. 今後の委員会の進め方

これまでの流域委員会を通じて、今後の委員会をどのように進めていくべきかご意見願います。

- 1) これまでの流域委員会についてのご感想等、ご自由にお書き下さい。
- 2) 今後、委員会で取り上げていくべき議題等ございましたら、ご意見願います。
現在河川管理者は作業中のため、説明メニューの提示はなされておりませんが、その説明に関するご意見もお寄せ下さい。
- 3) 今後の委員会を円滑に進行するためのアイディア、また「川のあり方」や「川づくり」に関わることを含めて、ご意見がございましたら、ご記入願います。

3. 県管理区間とその流域の現地視察について

上流部の県区間の視察については、第6回委員会以降に直轄区間の場合と同様の方法で実施するものとされています。しかしながら、広い区域に亘りますので、時間的・費用的な面を考慮しますと、今後の委員会の中で地点を絞っていかざるを得ないと考えられます。

直轄管理区間の整備計画原案について意見を述べるという本委員会の目的を考慮した上で、流域委員会として視察すべき地点についてご意見をお願いします。

- 1) 上流部の県区間の視察において委員として視察すべき具体的な地点と推薦理由をお教え下さい。
- 2) 情報提供して頂ける人の推薦等、情報の共有化に向けた有用な事項をお教え下さい。
- 3) 上流域（県管理区間）を視察する理由・意義について、ご自由にお書き下さい。

4. 現地視察ルートマップの作成

庶務では、現在、委員が独自に現地視察を行えるルートマップ（直轄管理区間）を作成しております（第3回流域委員会資料参照）。ルートマップに記載予定のリストを次頁に示しますので、推薦箇所等の補足があれば、ご記入下さい。

1. 現地視察を振り返って

1) 視察した地点の中で興味深かった、関心を持った地点について、 : 大変興味深かった(関心を持った。) : 興味深かった(関心を持った。) : ふつうでお答えください。また、その地点を選ばれた理由をお教え下さい。									
第3回流域委員会現地視察					第4回流域委員会現地視察				
3-	円山川防災ステーション	0	6	3	4-	軟弱地盤(八条ポンプ場)	10	6	0
3-	野々庄~府市場の堤防	2	3	3	4-	塩津の堤防	3	6	3
3-	上ノ郷河畔林	6	6	1	4-	豊岡市内の廃川	5	6	4
3-	浅倉・赤崎地区	6	3	1	4-	コウノトリの郷公園	4	6	2
3-	蓼川井堰	5	7	1	4-	六方川内水対策 (六方排水機場)	2	7	1
3-	出石川直轄上流端 (谷山川放水路含む)	1	4	4	4-	KTR鉄道橋	4	5	1
3-	六方川内水対策 (小野川放水路)	2	5	3	4-	野上の湿地	5	6	1
3-	新田井堰	1	5	4	4-	下鶴井のヨシ原	6	8	1
3-	土淵より上流	0	3	4	4-	ひのそ島	4	6	2
3-	八代水門・排水機場	1	5	3	4-	左岸側無堤地区	3	7	2
					4-	奈佐川	0	7	2
					4-	一日市~宮島の堤防	0	6	2

その地点を選ばれた理由	
No.	意見
a	<p>3- 、 : いわゆる「完成堤防」を実見できた。これが一方で河畔林など自然環境の破壊を伴うことは遺憾。</p> <p>3- : 河畔林の多面的な価値を再認識した。現代の治水対策にも再利用されるべき。</p> <p>3- : ここでサケなどの遡行が阻止されないような対策が必要。</p> <p>3- 、 4- 、 、 、 : これらの地点では円山川下流域の特徴が良く見てとれた。その多くが人間の利便性から見て不都合とされる自然条件だが、逆にそれこそコウノトリを始めとする湿地や沼沢地に固有の生物を育ててきたのであって、これを人工的に押さえ込もうとしてきたこれまでの考え方を改めることなしには「コウノトリの野生復帰」も本物にはならないのではないかと。</p>
b	<p>円山川が堆積土の上に成立し、したがってそのことが防災上の大きな課題になっていること。その反面この地質、地形上の特徴が特徴的な自然環境を形成していること。</p>
c	<p>今まで意識して見たことがなかったので、興味深かった。</p>

d	<p>現在まで、円山川を漠然としか見ていなかった。自分には10年に1回、また何年かに1回氾濫する川、これが円山川と思っていた。現地視察後感じた事は、例えば、上ノ郷の河畔林、下鶴井のヨシ原等、貴重な自然景観、動植物は今後も守っていくべきだと考える。</p>
e	<p>流域に住む人々が受ける直接的な恩恵の中で利水は大切に大切なことである。その一端を確認できたことは大変よかったと思っています。</p>
f	<p>軟弱地盤は豊岡盆地全体の問題であり、大変難しい問題をはらんでいる。構造物を造る場合は岩盤の比較的浅い山王山、神武山周辺と右岸の梶原地域など東側（椿色安山岩）がよく安定するが、左側の西側の地域は豊岡累層の風化層で、中央部の沖積層と同様に軟弱地盤で危険地域である。</p>
g	<p>：3- ：上ノ郷河畔林：円山川流域の河畔林の現状を知りたかった。 ：3- ：蓼川井堰：井堰の大きさと農業用水としての利用価値の高さ、雨で水量の多さもあったが忘れられない風景でした。 ：4- ：軟弱地盤 - 現場で一年間で1～2㍎の地盤沈下の実態をみて、大変な事態を抱えていることに驚き、対策があるのか、水害だけでなく地震対策としても考える必要があるのではないか。 ：4- ：豊岡市内の廃川 - 気候・町並みからみてたいへん重要に役割を果たしているのを見ました。綺麗な川づくりが必要である。 ：4- ：下鶴井のヨシ原 ヨシの群生に生きる小動物の棲息を知らされ感動しました。またそれを調査研究し大事にされている方々敬意を表し「小動物を大事にしない文化は人間も大事にしない」と思い、これでは人類に未来がない、自然との共存を強く感じました。 ：4- ：ひのそ島 植生を考え、水流を考えた島造りに興味を持ちました。</p>
h	<p>3- 、4- 、4- ：良好な自然環境が保たれているようで、その維持の重要性が感じられた。4- については、湿地の冠水と生物環境の関係が興味深かった。 3- 、3- 、4- 、4- ：円山川の水害対策の困難さが知られた。 3- ：利水に供する役割を知るとともに、魚の遡上の観点から障害になっていること。 4- ：景観上、まちづくりの観点から興味深かった。</p>
i	<p>治水対策としての円山川と自然の豊かさとしての円山川。両者の関係が見えそうな地点だから。</p>
j	<p>：4- ：軟弱地盤（八条ポンプ場） 豊岡盆地における軟弱地盤で八条ポンプ場の基礎部分の沈下状況を見て認識を新たにした。 ：3- ：六方川内水対策（六方川排水機場） 慢性的な床上浸水を解決する目的で創設された事業に対し治水の観点から非常に興味深く思われた。</p>
k	<p>円山川については多少勉強しており、あらためて関心をもつ場所は多くない。</p>

l	<p>3- : 河畔林が源流域の植物の種子が流れついて繁茂したことに関心を持った。</p> <p>3- : 水門、排水機場の計画、操作について、本川と八代川の水位が複雑な関係にあること、また、整備の背景に過去の治水対策の経緯がある事に関心を持った。</p> <p>4- : 干満差が小さく、出水時以外は水位が安定しているため、湿地復元に有利な状況にある事に関心を持った。</p> <p>3- 、4- : 円山川の氾濫による被害経験を持ち、今も不安を抱えて生活されている方々の生の声が聞けた事に関心を持った。</p> <p>4- 、4- : 当現地が円山川の歴史を想起させる重要な地点であることに関心を持った。</p>
m	<p>4- 、4- : 円山川の河道改修の歴史を知る上で重要な地点であり、往時の主流路が有していた洪水処理能力を推定する手掛けを与える場所ではないだろうかと感じました。</p> <p>4- : 今後の湿地環境がどのようになるのか興味深いところです。</p> <p>3- : この固定堰が洪水流や河床変動に及ぼしてきた影響を知りたいと感じます。</p>
n	<p>景観が良かったと思う。時々、魚釣りをする人も見かけるので、治水とそれを上手に利用した場所だと思う。</p>
o	<p>円山川下流域の地質・地形の形成と自然流水河川と人工河川の可否、人間中心の工法と自然の動植物に配慮しながらのあり方を知る上で重要拠点と感じたから</p>
p	<p>3- 、4- 、4- : 自然の風景が特別素晴らしい。</p> <p>4- : アイガモ農法等人間の食も考えたコウノトリ野生復帰への取組。</p>
q	<p>3- 、3- : 円山川氾濫の現実を今も持ち続けている地理、地形であり、その対策に取り組んでいる現実性が伺えるから。</p> <p>4- : コウノトリ復活の大切さとその意味を市民が知り、考えて、行動している点。2005年放鳥後のコウノトリと農家との共生がどう定着していくか興味深い。豊岡市だけでなく、全国、全世界にその意味を知ってもらう必要を強く感じる。</p>
r	<p>4- : このような自然状態が保存されていることは案外知られていない。その保存対策をも含めてPRの方途が講じられないものか</p>

s	<p>4- : ランドスケープとして大変ポテンシャルの高い場所であると感じた。円山川の歴史上重要な空間である。</p> <p>4- : 治水上の問題があることは理解できた。年月を経た鉄橋と橋脚の姿が味わい深く地域のランドマークになっていると感じた。</p> <p>4- : ヨシ原の面積の広さに圧倒された。壮大な景観もさることながら、そこで暮らす生きものの営みを想像すると感動を覚える。</p> <p>4- : 軟弱地盤の状況が実際に確認できた。沈下の程度には驚かされた。</p> <p>4- : 豊岡盆地における人と自然の営みの象徴であるコウノトリ。コウノトリが棲息できる環境を目標とした取り組みがよくわかった。</p>
t	<p>少なからず関心をもった地点として 4- と 4- を挙げた。</p> <p>4- の地盤沈下については、なお1cm/年程度の沈下が続いているのであれば、対策をとる必要があると思われる。仮に地下水の過剰汲み上げが原因であるとすれば、それを放置せず、水収支対策をとることによって、地盤沈下による各種施設等の修復のため将来的に発生するであろう多大なる経費の計上を予防する必要があると思われる。</p> <p>4- については洪水時の鉄橋の挙動、即ち鉄橋流失に連動する破堤がある程度予測されるのであれば、被害甚大なだけに関係地区住民にはその危険性を十分認知させ、災害発生前の避難方法を知らせておく必要がある(既に措置済みとは思われるが)。橋脚地盤についても、今後の流域開発やダム建設等との関連で、河床の変動を予測して、対策をとっておく必要を感じた。</p>

2) 現地視察を行って新たに把握したことについてお教え下さい。	
No.	意見
a	これまでのところ、直轄区間の整備は、極力人間と水を切り離し、水を「川」という巨大な「水路」に閉じこめようとする管理思想に拠っていると感じた。他方で河畔林やヨシ原、中州などを単に生物の保全の見地からだけでなく、治水の一環としても再評価すべきだと思った。
b	上記した防災と環境を保全する上での矛盾あるいは対立する面を英知を持ってどう答えを出すのか問われています。
c	現地に立って弱小堤防のイメージがよくわかった(4-)。井堰から引かれた水が、どの地域で利用されているかということを知ることができた(3-、3-)。
d	円山川の視察に初めて参加したためすべてが新たに把握する事柄ばかりであった。想像以上に雄大な河川景観が展開していたことや自然性の高い河川であることが現地視察によって確認できた。今回の現地視察は治水、利水、環境、景観等の観点を取り混ぜて行われたため、個人的にはやや整理がつかない状態であった。
e	直轄管理区間の中で、日高町ほど無堤地域が点々と存在するところはないのではなか(左岸、朝倉、岩中、宵田、江原等)。また、右岸には赤坂、日置、多田、野谷等が無堤地区。他市町よりも多い事に気がついた。
f	円山川と流域に住む人々との関わりの多さ、豊かさそして安全性の大事さが認識できたことが大変よかった。
g	防災ステーションを見て緊急(治水)に対する備えはかなりの態勢ができていると感じられた。六方川の内水の処理について4-六方排水機場の能力も向上されているが、大水害の発生時にはやはり円山川本流の水位を下げるのが基本であるように感じる。
h	私は円山川流域の上流に住んでいるので、下流はほとんど知らないと言っていいほどで、今回の現地視察で未知の発見と、全体的な流れを知ることが出来ました。話では聞いていたが、地盤沈下の実態を見て堤防による防水、排水施設による防水ではなく、町づくりの発想の転換や、長期的な対策の必要性を強く感じた。現地調査は私にとって始まったばかりで巨大な樹にたとえられている印を付けていますが、始まったばかりです。また上流に住まいする者として、毎日の洗濯に流す洗剤が気になり、上流より流れる土砂・汚泥がどのような影響を与えているのか心配です。
i	外水と内水の両方に問題があり、水害およびその防止軽減策に豊岡盆地の軟弱地盤が関係していること。川とその周辺環境は、比較的良好に保たれていると思われたが、昔と比べると悪くなったという意見が聞かれたことから、環境の変化をどうとらえるかについて改めて考えさせられた。

j	<p>困難な治水対策の取り組みを少しだけでも把握できたように思う。その一方で根本的な治水対策はとても難しいとも思った。上ノ郷河畔林や下鶴井のヨシ原など、円山川に特徴的な自然は何とか維持されているが、今後維持し続けていくのは、困難だとも思えた。どうしていけばいいのか考えていくのが流域委員会の役割の一つだと改めて認識した。全体的な感想としては、視察の方向性が治水と自然保護に集約されていたように思える(蓼川井堰や新田井堰などは視察したが)。円山川と人々とのかかわりや円山川に関する現場の知や生産・生業活動などの視察がもう少しあってもよかったと思う。それは、治水と自然保護という困難な課題の解決に向けた、一つの鍵になるように思う。</p>
k	<p>視察箇所それぞれについて各委員の専門的分野また河川管理者からの説明により、貴重な話を聞かせていただき、今までの認識を新たに出来たことについて大変感謝しています。</p>
l	<p>赤崎橋の工事により丸石河原、河畔林が何の配慮もなく失われてしまったが、この工事が農道内の農道橋工事あることが原因であると推察できた。野上の湿地の遷移状況や、魚への影響を知りたく思った。</p>
m	-
n	<p>塩津の旧堤の状況から、平成2年の出水によく堪えたものだと感じました。当時の地点での水防活動について知りたいと思っています。</p>
o	<p>地域の生活文化や自然の動植物ひいてはゆとりと豊かさを保つよう工夫された工法の開発が重要と感じた(サクラの木を堤に植栽するなどあまりにも幼稚なやり方など・・・)。</p>
p	<p>これまで見たことのなかった円山川の豊かな自然、洪水時の防災施設、防災活動の準備がなされている事を見て心強く感じました。豊岡市の廃川、塩津の堤防が市民の憩いの場として愛されている。</p>
q	<p>4- : 円山川の両岸、ことさら豊岡市街地のほとんどが粘土層の上に位置し、毎年1~2mm 地盤沈下している点で、八条水門事務所の花壇壁が、20年余で約30cm 沈下している現実を見て本当に驚いた。今後の豊岡市の開発及び堰堤の基礎作りに大きく注目したい。</p>
r	<p>3- 、4- 、4- と3- を始めとする人工治水策との対比とその調和について考えさせられた。</p>
s	<p>余り時間がなかったので特別にない。</p>

3) 直轄管理区間の現地視察について、ご感想・ご意見・ご質問がありましたらご自由にお書き下さい。	
No.	意見
a	やはり現地視察に先立って、現行の円山川整備計画を具体的に示してもらい、それを念頭に現地を見るべきだと考える。
b	各々の専門分野の方々の説明も有意義であったが、特に印象に残ったのは細田委員の話であった。客観的な視点での河川環境や状況の把握と共に、日々の生活の中で住民の方々が円山川とどのように関わっているのか、どのような出来事があったのか、現在川をどのように評価しているのか、という生の声をお聞かせ頂くことも必要ではないかと感じている。
c	奈佐川、出石川等は非常によく改修されているが、同じ直轄河川でありながら、稲葉川は27区間決定していないのはなぜ。
d	大変よかったですと思います。円山川の現状を先ず把握すること、そこから今後協議すると思われる事項への思いやりや考え方がより深まることを期待しています。
e	堤防を次々に補強して治水対策が進められている。円山川の直轄地区は海面との落差が殆どないので、治水から下流域の障害を除去して、円山川の水位を下げるのが最も重要である。「菊屋島の附近の川幅を広げること」、「風早山の突き当たりを考えること」の外、「ひのそ島の掘削の必要」があるが、他の条件より、「半分」と聞いているが円山川の特性より、治水を第一義的に考えるべきではなからうか。
f	現地視察が出発で、何でも見てやろうと意欲を持っていますが、時間と体力あるかどうか心配です。次回の川下りの調査で何が発見できるか期待しています。
g	各視察地点において、そこでの治水、環境等に詳しい委員からの説明が大いに参考になった。
h	視察の箇所・ルートについて不満はありませんが、時間的余裕がまったくないのが大いに不満と考えます。認識の共通性は理解できますが、時間的の制約に縛られ十分な視察が出来ていないように思います。
i	丸石河原の消長など時間経過を伴うものは、参考資料が必要。景観、親水という観点も必要。魚道が見たい。
j	詳細なご準備の下、見学させていただき、また種々貴重な資料を提供いただきました各位に感謝いたします。河川管理者の方で現地説明用のパネルを用意いただきましたが、可能であれば、コピーを配布いただき、後ほどの現地視察の詳録にも添付いただけると、欠席者にもよりよく内容がつかめるのではないかと考えられます。
k	現地視察は大変重要であり、今後も必要に応じて行うべきである。

l	<p>現地を直接調査する機会は非常に有意義であった。今後も委員会で課題地点が出てきた時は、再度、現地に赴き調査することが必要と思う。</p>
m	<p>中の郷地区の状況について近年の変化を説明してほしい。特に土渕の変化との対比でかつての姿をよく留めているのかそうでないのかには興味があります。</p>
n	<p>過去の流形を大改変したなどということが廃川の残存部を通して理解できた。本来の流形を残すことを法的に義務づけることが大切と思う。流形が大きく変わることは地域の生活文化の破壊でもある。コウノトリがはばたく豊岡盆地の再生を考えるかのようなポーズがみられたが、農業構造改善や河川の大規模改修が又、農業近代化が破滅に追いやったとの自覚が欠けている。今こそ、何を残し、何を改修するのか目的の明確化が重要と痛感した。</p>
o	<p>時間的な制約もあり、十分な理解ができていない。秋から冬にもう一度訪れて体で感じて見たい。KTR鉄道橋について会社ではどのような計画をされていますか。一日も早く安全な円山川に調和する素敵な鉄道橋ができる事を希望します。</p>
p	<p>上ノ郷河畔林は川の環境を守る上で、河畔林木伐採など厳しく制限を設けるべきである。一方、ひのそ島など貴重な中州であるが、川の機能に支障をきたす場合は、一定の処理処分もやむを得ないだろう。要は自然を受け入れる環境を重んじ、自然を育て守ることが、人間を守り育てる事になる。その道理を円山川から広く全国に知ってもらい、モデルとなる川づくりを目指してほしいと思う。</p>
q	<p>上記1)2)のような感想が得られただけでも有意義であった。3-、4- に関して私が要望した説明が得られなかったことは残念。</p>
r	<p>時間的な制約もありますが、場所をもう少し絞って、視察する方が良いのでは。</p>

2. 今後の委員会の進め方

1) これまでの流域委員会についてのご感想等、ご自由にお書き下さい。	
No.	意見
a	1の3)で述べたように、現行の円山川整備計画(できれば県管理区間を含む)を提示してもらわないと、現状の現象的把握に止まってしまうように思われる。
b	1回1回がどのような趣旨で開催されているのか、この委員会が持つ役割がまだ十分に理解できない。
c	委員会の進め方の議論で時間の大半を使ってしまう傾向があった。円山川の自然や歴史など、たいへん興味深い話を聞くことができた。
d	可能な限り円山川を多角的に捉え共通言語で議論するためにも河川の現況把握は優先課題である。そのために各委員から貴重な資料や話題が提供されているのだが、問題提起されている事柄について流域の中での位置づけが不明確な時があり、何のために個別事象を取り上げているのか理解できない事があった。私だけかも知れないが提示される情報の種類が多すぎて整理できない感が否めない。総論としての「円山川の概要」から、そろそろ各論として例えば「治水の歴史と現状」「景観の変遷」「棲息魚類の流域における棲み分け」「円山川の水利用」等、小テーマを設定して頂き、現状把握と今後の課題について整理しながら議論するかたちはとれないものだろうか。
e	今までは、円山川の現状認識に努められてこられたように思います。そのことは正しい行いだと思います。
f	流域委員会の役目が十分認識されないまま進められているように感じる。焦点が合っていないように思う。
g	今のところ現状でいいと考えますが、現地の人の問題提起がぜひ欲しい。また河川管理者より将来的な整備計画があれば示して頂きたい。
h	現地視察も含め、円山川の委員による説明も積極的に行われ、その概略の概ねの共有化ができたのではないかとと思われる。ただ、何となく、もう一つじっくりしない感じが否めない。委員間の意思疎通が不十分なためではないだろうか。
i	当初に比べると、議論しやすくなったと思う。また事前に資料が配布されるようになり、委員会にのぞみやすくなった。直轄管理区間だけに限定せず、流域全体について議論できる場であってほしい。
j	現在までの委員会の進め方で結構だと思います。
k	委員会の目的、円山川大臣管理区間の現況流域の概要等について、委員会として理解はかなり進んだのではないかと感じています。「円山川への想い」や「あるべき、望んでいる姿」について話し合える時間が少なかったことや、近年の大洪水である平成2年出水の時の状況についてもう少し踏み込んだ説明も時間的な制約で難しかったのも残念です。

l	<p>流域委員会の結論がすでにどこかで決まっており、その路線上で単なる議論のような進め方が各所でみうけられた。発言にしても仕方がないことかな・・・と無気力になることがあった。工事を行えば豊岡周辺で生活する人々は本当に安心できるのだろうか。工事以外で不安なことが沢山ある。勿論、野生動植物は工事により大被害を受ける。工事をさける中で被害を少なくする知恵を生み出すことが委員会の最大目標であるのではないか。</p>
m	<p>当初の委員会では戸惑いがありました。回を重ねることで興味も増してきています。川のある暮らし、水をめぐる人と自然のあり方を学んでいきたいと思っています。</p>
n	<p>管理者に対する気遣いが必要以上に感じられる。視察回数が少なく、一度の視察場所が多すぎる。もっと視察場所を減らしてでも、下流、上流に足を運び、委員が円山川を広く深く知る事ができるよう努力するべきでは。</p>
o	<p>各委員の発言が、それぞれの立場から、より活発化することを望む。</p>
p	<p>一般の方の関心があまりないなと思います。いつも同じ方々が聞きに来られている。具体的な方向を見つけ出して、広く一般の方々に聞きにきてもらえれば、片寄った事にならなくて良いのでは。</p>

<p>2) 今後、委員会で取り上げていくべき議題等ございましたら、ご意見願います。現在河川管理者は作業中のため、説明メニューの提示はなされておりましたが、その説明に関するご意見もお寄せ下さい。</p>	
No.	意見
a	<p>2の1)で述べた現行の整備計画を提示していただき、これについての管理者の説明、問題点、新しい整備計画作成のための参考意見等を聞かせていただく。</p>
b	<p>上流域の開発が下流域の増水にどの程度の影響を及ぼしているか等について、概要を知りたい。</p>
c	<p>流域の風土を背景にこれまで培ってきた生活文化や伝統的な産業と円山川との結びつきについては「母なる川 円山川」の資料から把握できるが、それが流域のどの辺りのことか土地勘のない者にとってはわかりにくい。情報量が多く繁雑になる可能性もあるが、環境情報マップ(自然環境、人文社会環境、治水対策地点・・・など分類し)として地形図をベースとしたビジュアルな資料を提示していただければありがたい。現況把握を適切に行い円山川の特性を明らかにし、何を問題解決し何を守るべきか明確にするためにも。</p>
d	<p>円山川の理想する姿を当局としてはどのように考えられているのかを提示していただきたい。この流域委員会は全国で展開されていると聞いています。インターネットでその情報は確認できますが、その一部をご紹介いただければ幸いです。</p>
e	<p>特に意見はないので、河川管理者より問題点を積極的に提出していただきたい。「たたき台」がないまま委員会が進められているように感じる。</p>
f	<p>委員会で取り上げる問題については、住民からどんな要望が出ているのか知らせて頂きたい。多くの資料がすでに出されているので、現地視察と平行して委員会として何をするのか論議を積み重ねる手立てが必要ではないかと考えます。</p>
g	<p>治水上の問題点と対策、円山川の流域特性を踏まえ、水害の状況と原因およびその防止軽減法について議論。環境保全上の問題点と対策、環境変化の状況と原因および保全策について議論。</p>
h	<p>人と円山川のかかわり、例えば、伝承、生産・生業活動、遊び、水利用など。伝承については、国土交通省で円山川に関する伝承を収集・整理したと聞いているが、そうした情報も積極的に提示していただきたい。水利用については、井堰から、いつ・どこへ水が流れているのかといった「円山川の水のゆくえ」といった資料をまとめてみてはどうか。また、現状での円山川に関するイベントなどの資料も提示していただきたい。ある人から10年ほど前に円山川サミットが開催されたと聞いたが、その資料を提示してもらいたい。</p>

i	河川管理者の現在の事業の紹介・今後の事業予定等公表できる範囲での説明、資料提示を要望します。また、県管理区間との関連についても説明をお願いします（現地視察での説明で多少知りましたが）。
j	八代水門、排水機場の整備経緯については、八代川の越流堤も含めてわかりやすい説明を河川管理者に行って頂くようお願いしたい。
k	円山川の河川整備の目的は何であり、その目標はどこに置かれるかについて委員会としてはどのように考えているのかを議論していかなければならないでしょう。今後河川管理者がこれまでこれらの地点をどのように考え、位置付けていたかについて説明を受けながら、委員会はどのように考えるのか議論を進める必要があると思います。
l	委員会として最低限やるべきことは、円山川全流域に関して、地域の自然の豊かさを生かしながら地域の生活文化を継承する方向性を打ち出すことが必要であろう。土木工学・河川工学の技術論はその後で専門家グループが最小経費で最大効果があがるように設計すればよい。入り口がなく（円山川全流域）出口（国土交通省の管轄域）だけを論ずるのでは次世代に責任を負う姿勢に欠けるのではなからうか。
m	課題： 森林の役割、 農業と水、 円山川と漁業、 日本海沿岸漁業との関わり、 円山川のごみ問題、 支流の中小河川でヨシがはびこって水の流れを妨げている、 ヌートリアによる野菜等の食害が増えている
n	円山川の過去の氾濫事例において、管理者の立場でありながら、なぜ、氾濫を防ぐ工事作業ができなかったのか、そうした説明話が聞きたい。また、現在、危険区域について、どう取り組んでいるのか、河川は海と同様、護岸作業及び管理維持に必要な区域は、国又は地元自治体で土地取得して作業を進める必要があると思う。氾濫のない川づくりのための強力な堤防をつくるには何が必要か。その上で、利水を考えるべきと思う。
o	委員の多くは河川管理・治水には素人で、専門家の立場から問題点を取り上げて提起していただきたい。その対応策を計る上で、素人としての立場からの問題提起、アイデアの提供ができるのではないか。
p	治水を中心に考えて行く中で景観とか、保護を「どうするの？」って話を付帯して行けば良いと思います。

3) 今後の委員会を円滑に進行するためのアイディア、また「川のあり方」や「川づくり」に関わることを含めて、ご意見がございましたら、ご記入願います。	
No.	意見
a	1) 2)と同様だが、管理者からの資料提示に基づいて委員会が円山川管理の問題点をより論理的に把握できるようにしてもらいたい。論理的に把握するためには必然的に全流域を見る必要があるので、「川のあり方」が「山のあり方」、「街のあり方」、「田畑のあり方」、「人の暮らしのあり方」等々へ波及してゆくとされる。
b	特定のテーマを定め、ワークショップを開いてみればどうか。
c	地域住民から見た円山川の良さ、魅力を整理してみたい。
d	「景観」は専門的な知識の有無に拘わらず誰もが評価できる項目である。川の風景を眺める行為は川と人との極めて気楽で気軽な関わりであるとともに印象的な風景は人の心に残り個々人の原風景となりうる。さらにその風景が他者と共有されたとき、地域のイメージを象徴する媒体としての意味をもつ。今後の円山川のあり方を考えたとき、どのような景観を保全すべきか、あるいはどのような景観を積極的に育てていくか、基本的な考え方を示すことが重要であると考え。そのためには円山川の景観に関わるこれまでの知見や資料を収集する必要がある。まずはこれまで円山川流域において高く評価されてきた景観、例えば常に写真で紹介される風景、文学や校歌の舞台となった風景、あるいは円山川 景などのように選定されたビューポイントはあるのかどうか等、調査する必要がある(以前提示された第3回別紙資料「現地視察ポイント」において「景観」という観点から数カ所の地点が示されているが、これは広く認知された景観をピックアップしていると思えて良いのだろうか?)
e	もう少し円山川の現状(歴史、観光、治水、利水)を認識できてきた段階において、委員の希望により部会形式での検討も一つの手段ではないでしょうか。
f	河川管理者より「たたき台」を提出してもらい、これに基づいて委員会を進めるのが最も合理的であろうと思う。
g	委員会とは別に、勉強会の開催(情報共有化の促進) 交流会の開催(委員間の意思疎通を図るため)等を考えてみてはどうか。
h	一度、委員同士でブレインストーミング、ワークショップなどを実施してみてもどうか。そこから「川のあり方」や「川づくり」の方向性が幾つか見えてくるかもしれない。
i	人数も多いので、淀川のような分科会が必要なのでは。
j	円山川の「あるべき姿」、「あってほしい姿」について意見を出し合う必要があると思います。具体的な願いから多少空想的なイメージまで含めて議論し、それを表現する言葉も探っていくことができれば、今後の河川整備の方向付けにも役立つように思います。

k	<p>私は円山川の上流で、「一滴の水が大河となる」その一滴に近い地域で、川づくり地域づくりがされています。河川管理者は、これらは町・県の報告によってよくご存じのことと考えています。何処の地域でも色々な実践がなされています。国の管理下の地域と県の管理下のものを、一本にして流す点検は当然なされていると考えます。そのような資料が報告としてだされているなら紹介してほしい。上流では財産を守ることに、いかにスムーズに水を流すかが、河川整備の問題の問題として工事が進められてきました。国は早くから環境問題を考えた整備が言われていたが、現実には河床の岩を砕き、大きな石を運び出し、できあがった川は平坦な、樹の影もない魚の住みかを奪った川に変貌しています。一度川に転落するとはい上がる足場も手がかりもない築堤になっています。最近丸い自然石かのごときセメント石が張り付けられているのを見ますが、その隣で素晴らしい自然の岩が壊されている現場があります。そのために一気に大雨の水は流れ、下流が短時間で水嵩が増すのが現状ではないでしょうか。朝来では9割が山林地帯、ここに降る雨の処理が課題です。その対策に砂防堰堤が造られてきたが、最近では美林造成をめざした間伐が公費10%で取り組まれているが、あまりにも少ないとみています。</p>
l	<p>基本はまず自然のありのままの河川を認め合うことである。自然界の改変が経済効果をもたらしたり、人間生活を豊かにすることを全面否定はしないが、改変で心身の豊かさが得られるかのような錯覚に地域の人々を陥れてはならない。色々な人の立場の意見が受け入れられ、議論を通して相当に納得したとき、具体的工法に入れるルールづくりが重要である。</p>
m	<p>川を視察する以上、舟を多用する必要があると思うが、全く、管理者の配慮がかけられている。舟で近づけない所を陸路とするのが常策と思うのだが、ともかく生野の最上流端と舟による海の入江を視察できるよう強く検討を求める。</p>
n	<p>各委員の発言が、それぞれの立場から、より活発化することを望む。委員の多くは河川管理・治水には素人で、専門家の立場から問題点を取り上げて提起していただきたい。その対応策を計る上で、素人としての立場からの問題提起、アイデアの提供ができるのではないかと。</p>
o	<p>円山川の特性を考えて、必要な事を出していけば、円山川の川づくりの方向が見えてくるのでは。</p>

3．県管理区間とその流域の現地視察について

1) 上流部の県区間の視察において委員として視察すべき具体的な地点と推薦理由をお教え下さい。	
No.	意見
a	山東町川上地区（与布土ダムの予定地とその上流部周囲の植林地）山東のみならず、八鹿、但東などで計画されているダムや、近年各地で増設されている砂防堰堤、急傾斜地の工事など、上流域のあり方に大きな問題を投げかけている公共工事の一例として最適の現場を考える。森林の機能についても考えられる場所。
b	出石川上流：比較的近いので、現地視察に時間をかけることができる。中流域の河川の様子を知ることができる。
c	上流部（朝来町）で広葉樹の植林に取り組んでおられる地域・団体
d	特に大きな支川を視察対象にすべきと思うが、管理者の兵庫県土木部（八鹿、豊岡）の意見も聞いて具体的にするのがよいのではないか。
e	上流域で私の知る範囲の報告をさせていただきます。朝来町では左の地区、人工林が多くあり充分な間伐が行われていないので、木の下は瓦礫で保水力がなく「大雨の時に山が抜けた」と言われている後を写真で記録しています。災害復旧で整備されているがこれでいいのか。和田山町竹田の河川整備とありますが、これは写真で説明できる範囲のものでもあると考えます。全体的見地から判断する必要があると思っています。
f	流域全体の概要を把握するために、上流部の現地調査は必要。少なくとも、本川、出石川、大屋川等主要な支流を源流域まで通して見ておく必要があると思う。具体的な地点の選定は、上流部の視察の目的について、あらかじめ委員会で議論をし、視察に対する認識を共有した上で行った方がよいと思う。
g	管理境界から上流に向けて主な支川が合流してくる状況と河道の変化、河川横断構造物（取水堰、床上）、平成2年出水の災害復旧事業（河川改修）とその後の変化。
h	上流域の大半を占める山の現状を理解する必要がある。今夏の熊本県などの被害は自然災害という人が多いようだが、半分以上は人災である。保水力に欠ける山にしたのは人であり、その下流域に人家を集中させたのも人である。従って、下流の安全は上中流のあり方で大きく変わる。視察地点は密生スギ人工林下（南但地域で）、三面張りの谷川、放置された山田など。
i	完成している大路ダム、与布土ダムと八鹿ダムの予定地。 建屋川：オオサンショウウオを含めた水生動物の保全と様々な保全対策工法を取り入れた建屋川の現状。 但東町林道郷路線沿道の人工造林地。 朝来町多々良木ダム周辺の人工造林地現況（周回道路が良く管理されている。）

j	円山川を理解する作業の一つとして、生野町の円山の川の最先端を視察したい。できれば支川との分岐、分水地点を見たい。円山川を知るには、やはり、最上流と、その河口、海岸を見極めてこそ、納得の得られるものが見つかるのではないだろうか。
k	円山川水源地（2ヶ所）小和田 国道から数分歩くところに、この規模の川の水源地に達し得るような河川は珍しいのではないか。「円山川のすべてを知る」という立場から必見の箇所。

3-2) その1

2) 情報提供していただける人の推薦等、情報の共有化に向けた有用な事項をお教え下さい。	
No.	意見
a	上流部（朝来町）で広葉樹の植林に取り組んでおられる地域・団体 あさご自然塾 朝来町どのう高原
b	項目別に公募したらいかが（円山川流域市町村を対象に）。
c	流域全体を把握する上で有意義であるが、広範囲に及ぶので、視察場所、視察の目的等について、あらかじめ河川管理者(国、県とも)にも入っていただいて、十分議論、検討を行った方がよいと思う。
d	円山川流域森林の現状と管理について - 兵庫県豊岡、和田山農林振興事務所担当者。
e	各委員がそれぞれの専門的立場から、十分に情報提供をなし得ると思う。

3) 上流域(県管理区間)を視察する理由・意義について、ご自由にお書き下さい。	
No.	意見
a	2の3)で述べたように、下流の管理は上流の管理を抜きにしては論理的に成り立たない。
b	下流のみで問題を考えるのは不十分だと思われる。
c	流域委員会ということばの意味を考えてみても、上流域がどのような状況であるのか認識しておく必要があるのではないだろうか。視察が無理であれば現況の写真もしくはビデオで提示いただく方法はどうか。
d	川の治水、利水等の取り組みは上流、中流、下流が一体となっていくことが大切である。特に環境の一面から語られることが多くなった現在においてそのことは大事なことでありと思われる。
e	直轄地域はほぼ落差のない豊岡盆地内にとどまっている感がある。円山川の全体像をみることになっていないのではないかと。
f	直轄区間の流れは、その上流域の影響を受けることから、上流域の状況を把握することに意義があると思われる。最低限、下流の流況に影響をおよぼすような施設や河道区間を見学してはどうか。
g	流域全体で考える必要があるから、行政的理由以外で、流域を国と県の管理区間で分けて考える理由はあるのでしょうか？
h	現在議論の対象となっている大臣管理区間は円山川の最下流に位置しています。すなわち上流域全体の降水が流れ込んでくる区間です。また、生物が川沿いに移動する場合がありますので、対象区間に限らず流域全体、水系全体の状況はある程度把握しておくことが必要となると思います。
i	川の流れは山林のタイプ(植生) 山間の谷川及び林道、山田、柵田の現状 小河川の二面張り及び三面張り 上流域の河川中の縮小工法などの他に砂防ダムのあり方などを委員が早期に認識すべきである。又、中流域(竹田周辺など)の工法の問題点や砂利業者のあり方などあまりにも多くの課題がある。その点下流域は単純といえるのではないだろうか。
j	上流の河川現状と洪水対策、改修計画を知りたい。川の流量を安定させる森林の役割を理解することが必要。
k	円山川を理解する作業の一つとして、生野町の円山の川の最先端を視察したい。できれば支川との分岐、分水地点を見たい。 円山川を知るには、やはり、最上流と、その河口、海岸を見極めてこそ、納得の得られるものが見つかるのではないだろうか。

I	円山川水源地（2ヶ所）小和田 国道から数分歩くところに、この規模の川の水 源に達し得るような河川は珍しいのではないか。「円山川のすべてを知る」という立場か ら必見の箇所。
---	---

4．現地視察ルートマップの作成

庶務では、現在、委員が独自に現地視察を行えるルートマップ（直轄管理区間）を作成しております（第3回流域委員会資料参照）。推薦箇所等の補足があれば、ご記入下さい。

No.	意見
a	アメノヒボコ伝承のある瀬戸の切戸。（歴史の視点） 円山川城ノ崎漕艇場（川の活用の視点）
b	「玄武洞公園」は現在整備が進められつつあるが、推薦箇所の1つにしていきたい。
c	やはり、中の郷地区もポイントに追加しておいてください。
d	突然ルートマップと言われても上流中流域は数十ヶ所に及び、数人で朝来郡、養父郡、出石郡、日高町を巡視チェックの必要がある。下流域は狭い範囲などですであがっている範囲で充分である。